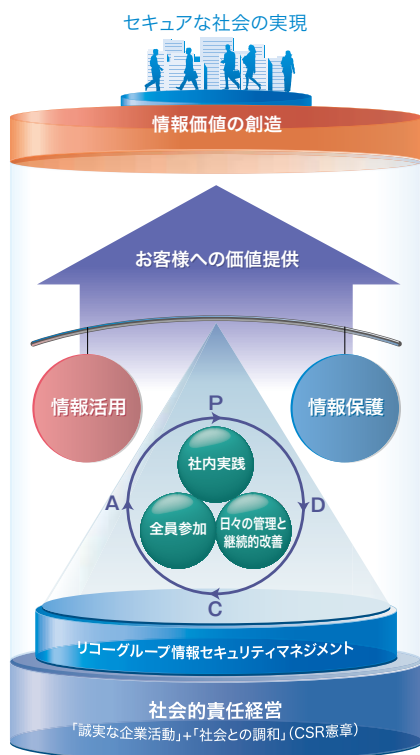


情報社会における安全性・信頼性の確保と事業活動を推進し、セキュアな社会づくりに貢献します

情報分野を事業領域とするリコーグループにとって、情報セキュリティはお客様に安心してご利用いただける商品・サービスを提供していくための不可欠な要素と認識しています。したがって、情報セキュリティへの取り組みを全員参加の活動と位置付け、現場・第一線で日々の管理と継続的改善を進めています。また、それらを基盤としてお客様への価値提供を目指した自社製品・サービスの積極的な社内活用を実践しています。情報セキュリティ活動は、リコーグループCSR憲章にある「誠実な企業活動」と「社会との調和」の実践を目指すものです。



2009年度の実施状況とレビュー

- **グループISMS統一認証の維持**
グループ統一認証の更新審査後、2回目の継続審査を受審し、52社がISMS*の認証を継続しました。海外ではRicoh Singapore PTE Ltd.が新規審査を受審し、統一認証に加わりました。(国内52社、海外46社、計98社)
- **「情報セキュリティ対策共通基準」の継続的改善と海外展開**
2009年度版共通基準をリリースした結果を踏まえ、「お客様へのサービス提供時に発生する情報の取り扱い」の項目を追加、管理運用方法を具体的に反映した記述の見直しなど、2010年度版として共通基準を改訂しました。海外においても共通基準の展開を進めました。
- **情報セキュリティ事件・事故および、監査・審査の不適合事項の再発防止の徹底**
外部への発表、審査機関や監督機関に報告を要する重大な事件・事故はありませんでした。情報セキュリティ事件・事故管理データベースシステムのさらなる改善と再発防止策のグループ内への展開を開始しました。
- **全従業員対象の教育を実施**
一人ひとりの「情報セキュリティ体質」の確立・強化を図る情報セキュリティ活動の3つの考え方について、e-ラーニングを実施しました。
- **リコーグループの事業継続計画・管理の充実**
新型インフルエンザの発生に対処すべく、リコー独自の行動基準を定め、全世界のグループ企業が一体となって行動計画を策定しました。

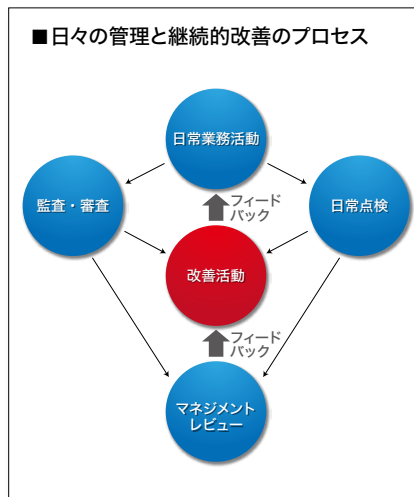
* Information Security Management System

2010年度の計画

- **グループISMS統一認証の維持**
グループ統一認証2回目の更新審査を受審します。
- **「情報セキュリティ対策共通基準」の継続的改善と海外展開**
基準としての完成度は高まってきたため、IT技術の実装や運用方法の工夫・改善により、実質的な対応を進めます。また、さらに有効な情報セキュリティ活動を進めるため、リスクアセスメントの効率化を検討します。海外においても共通基準の展開を継続します。
- **リコーグループの事業継続計画・管理の充実**
大地震、強毒性インフルエンザのリスクに備えて、グループとして有事対応の行動手順の整備・見直し・改善のプロセスを推進します。
- **情報セキュリティへの意識向上に向けた教育の継続**
一人ひとりの情報セキュリティ活動への取り組みをさらに有効なものにするために、セルフチェック形式の教育を実施し、全従業員のセキュリティ意識向上を図ります。
- **IT活用による情報セキュリティ事件・事故の再発防止**
ITの活用だけで再発防止が完全に図れるわけではなく、従業員一人ひとりの情報セキュリティ事件・事故に対する認識が必須です。本年度はヒューマンエラーの観点を加味して再発防止、未然防止を図ります。

**内部監査活動により、
日々の管理と継続的改善を推進
《リコーグループ/日本》**

情報セキュリティマネジメントは、全員参加により、日々の業務活動の中で確実に実践されてはじめて意味を持ちます。リコーグループでは、共通基準・ルールを整備や、教育・訓練の実施を徹底しています。また、それらが日々の業務で実践されていることを、従業員一人ひとりの自己管理、上司による定期点検、専門家による監査・審査などで確認し、問題点等は速やかに是正・改善しています。このように、従業員から、管理者、推進者、経営者に至る各階層でPDCAの改善サイクルを回しながら、継続的改善を進め、セキュリティレベルの向上につなげています。そして、日々の管理と継続的改善のPDCAを回す原動力のひとつに内部監査を位置づけています。



●リコーグループ内部監査体制

リコーグループは1,700名を超える内部監査員を擁し、監査統括部門が、その教育実績と内部監査実績を把握しています。すべての内部監査員は内部監査員データベースで管理されています。これらの実績から内部監査員の資格を段階的に定め、ISMS認証の継続・更新に寄与しています。

●リコーグループ内部監査員制度

リコーグループの内部監査員は3つの資格でそのスキルを管理しています。

(1)内部監査員補

監査統括部門が定める「情報セキュリティ内部監査員養成教育コース」の教育を受講し修了した者に与えられる最初の資格です。

(2)内部監査員

過去3年以内に規定時間、もしくは規定回数以上の監査経験を有する者に与える資格です。監査員は監査チームリーダーの役割を担います。

(3)主任内部監査員

過去3年以内に規定回数以上の監査チームリーダーの経験を有するものに与える資格です。

それぞれの資格やスキルの維持向上のために、監査員は教育の受講や監査経験を積み重ねて監査スキルの向上をめざしています。

**情報セキュリティの国際規格策定に
積極的に参画し、世界初の認証も取得*1
《リコー/日本》**

従来、複合機やプリンターにはセキュリティ機能の国際規格がなく、各メーカーは“独自の基準”でセキュリティ機能を機器に搭載してきました。そのような状況のなか、2003年に主要メーカーが中心となりワーキンググループを結成。リコーは、業界他社とともに積極的に活動し、規格策定に大きく貢献。2009年6月に国際的な情報セキュリティ機能の規格「IEEE 2600.1」が制定されました。この規格は、複合機・プリンターを対象にしたもので、オフィス用途はもちろん政府機関や軍など非常に高いレベルのセキュリティ環境での要求仕様(表参照)を定義しています。そして2010年3月、「IEEE 2600.1」に適合したCC認証*2を、リコーのデジタル複合機「imagio MP 5000 SP/4000

SP*3」が世界で初めて取得。より安心して機器をお使いいただけるようになりました。リコーでは今後も、国内外で販売する商品においてCC認証の取得を推進するとともに、お客様の情報資産に関わるあらゆるリスクに対処するため、時代に先駆けて商品のセキュリティ機能の開発に取り組んでいきます。

*1 2010年3月11日時点で世界初、リコー調べ。
*2 Common Criteria(ISO/IEC15408)認証。製品・システムに関するセキュリティ評価のための代表的な国際標準です。
*3 オプションの「imagio セキュリティカード タイプ9」が必要となります。

■ IEEE2600.1の主な要求仕様

項目	機能名
基本セキュリティ機能	識別認証機能、アクセス制御機能、ネットワーク保護機能(暗号化通信機能)など
消去機能	残存情報を指定パターンで上書き消去する情報消去機能など
管理機能	管理者によるセキュリティ管理機能など
監査機能	セキュリティに関するログの記録閲覧を可能とする監査機能など
検証機能	搭載ソフトウェアの正当性を確保するソフトウェア検証機能など



IEEE 2600.1に適合したCC認証を世界で初めて取得したimagio MP 5000 SP